

香川県の地震

令和4年（2022年）5月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	1
香川県の地震表（震度1以上）	・・・	2
震度分布図	・・・	2

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会^(注)

評価検討会調査結果 令和4年（2022年）6月7日	・・・	3
---------------------------	-----	---

（注）直近に開催された評価検討会の調査結果を掲載します。

地震一口メモ

「津波フラッグは避難の合図」～すぐに避難を！～	・・・	4
-------------------------	-----	---

この資料の震源リスト・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

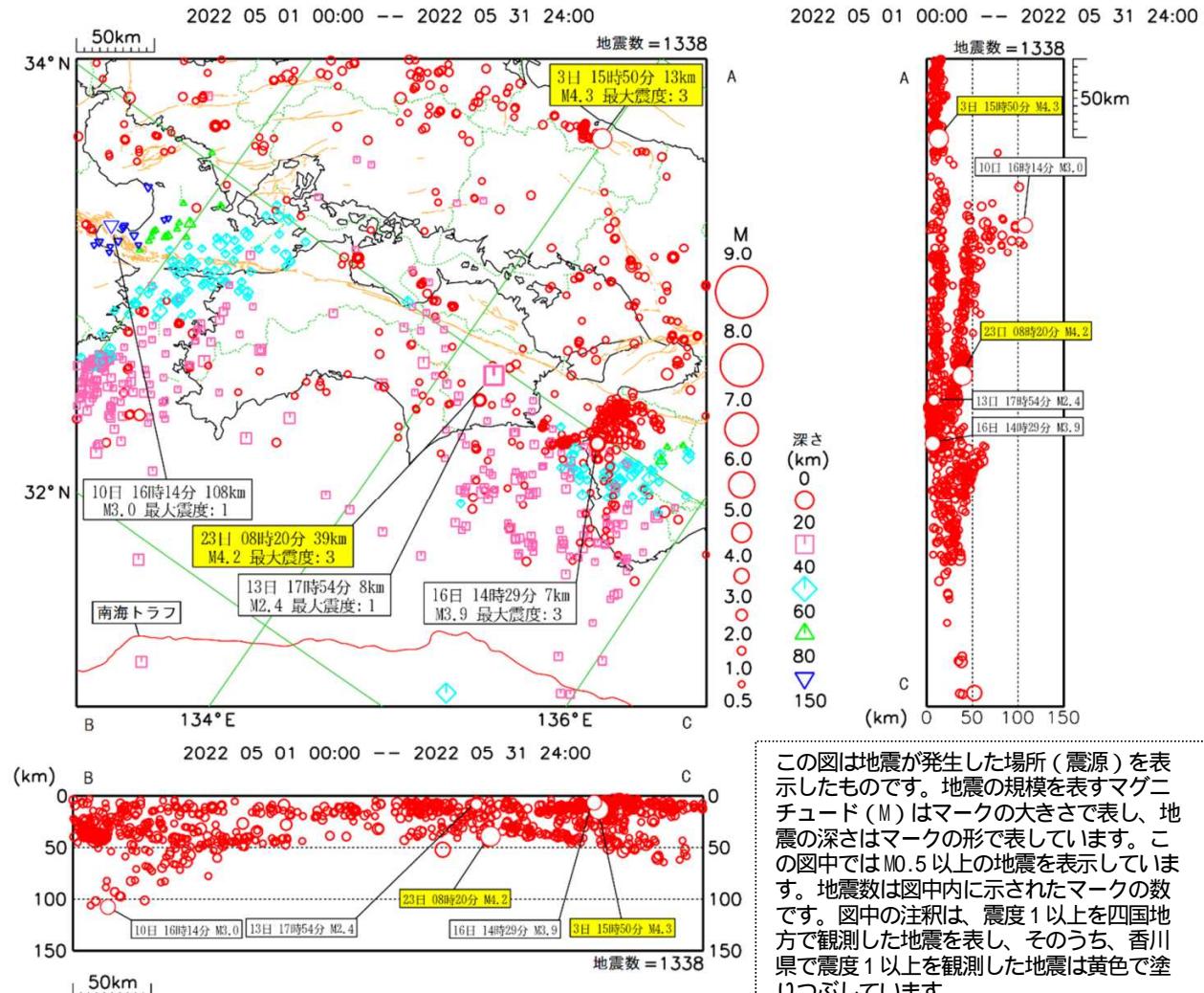
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2022年5月

震央分布図、断面図



この図は地震が発生した場所（震源）を表示したものです。地震の規模を表すマグニチュード（M）はマークの大きさで表し、地震の深さはマークの形で表しています。この図中ではM0.5以上の地震を表示しています。地震数は図中内に示されたマークの数です。図中の注釈は、震度1以上を四国地方で観測した地震を表し、そのうち、香川県で震度1以上を観測した地震は黄色で塗りつぶしています。

地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、次の2回でした（前月は1回）。

3日 15時50分 鳥取県中部の地震（深さ 13km、M4.3）により、高松市・土庄町・直島町・さぬき市で震度1を観測しました。この地震では、鳥取県鳥取市・倉吉市・湯梨浜町、岡山県鏡野町・真庭市で震度3を観測したほか、北陸・近畿・中国・四国地方にかけて震度2～1を観測しました。

23日 08時20分 徳島県北部の地震（深さ 39km、M4.2）により、さぬき市で震度3、高松市・東かがわ市・土庄町・三木町・直島町・小豆島町・丸亀市・多度津町・三豊市・綾川町で震度2、坂出市・善通寺市・観音寺市・宇多津町・琴平町・まんのう町で震度1を観測しました。この地震では、徳島県美馬市・つるぎ町で震度3を観測したほか、近畿・中国・四国地方で震度2～1を観測しました。

四国で震度1以上を観測した地震は、前述の他に次の3回でした。

10日 16時14分 大分県中部の地震（深さ 108km、M3.0）により、高知県宿毛市で震度1を観測しました。

13日 17時54分 徳島県南部の地震（深さ 8km、M2.4）により、徳島県那賀町で震度1を観測しました。

16日14時29分 和歌山県北部の地震（深さ7km、M3.9）により、和歌山県湯浅町・由良町・日高川町で震度3を観測したほか、和歌山県、徳島県で震度2～1を観測しました。

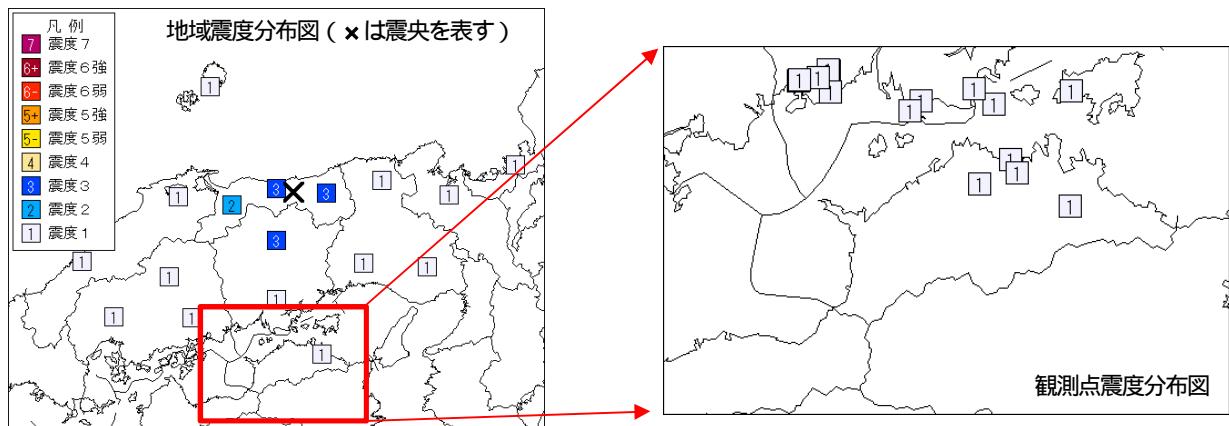
香川県の地震表（震度1以上）

震源時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度					
2022年05月03日15時50分	鳥取県中部	35° 25.4' N	133° 59.0' E	13km	M4.3
香川県	震度 1	高松市伏石町, 高松市扇町*, 高松市国分寺町*, 土庄町淵崎, 直島町役場*			
		さぬき市長尾総合公園*			
2022年05月23日08時20分	徳島県北部	33° 56.4' N	134° 18.5' E	39km	M4.2
香川県	震度 3	さぬき市長尾総合公園*, さぬき市寒川町*			
	震度 2	高松市伏石町, 高松市扇町*, 高松市香川町*, 高松市庵治町*, 高松市香南町*			
		高松市国分寺町*, 高松市牟礼町*, 東かがわ市西村, 東かがわ市南野*			
		東かがわ市引田*, 東かがわ市湊*, 土庄町淵崎, 土庄町大部*, 三木町氷上*			
		直島町役場*, さぬき市志度*, さぬき市津田町*, 小豆島町池田*			
		丸亀市新田町*, 丸亀市綾歌町*, 多度津町家中, 三豊市財田町*, 三豊市高瀬町*			
		三豊市詫間町*, 三豊市三野町*, 綾川町山田下*, 綾川町滝宮*			
	震度 1	高松空港, 高松市塩江町*, 高松市番町*, 小豆島町馬木*, 小豆島町片城*			
		丸亀市飯山町*, 丸亀市大手町*, 坂出市王越町, 坂出市久米町*			
		善通寺市文京町*, 観音寺市坂本町, 観音寺市瀬戸町*, 観音寺市大野原町*			
		観音寺市豊浜町*, 宇多津町役場*, 琴平町榎井*, 多度津町栄町*			
		三豊市豊中町*, 三豊市山本町*, まんのう町造田*, まんのう町吉野下*			
		まんのう町生間*			

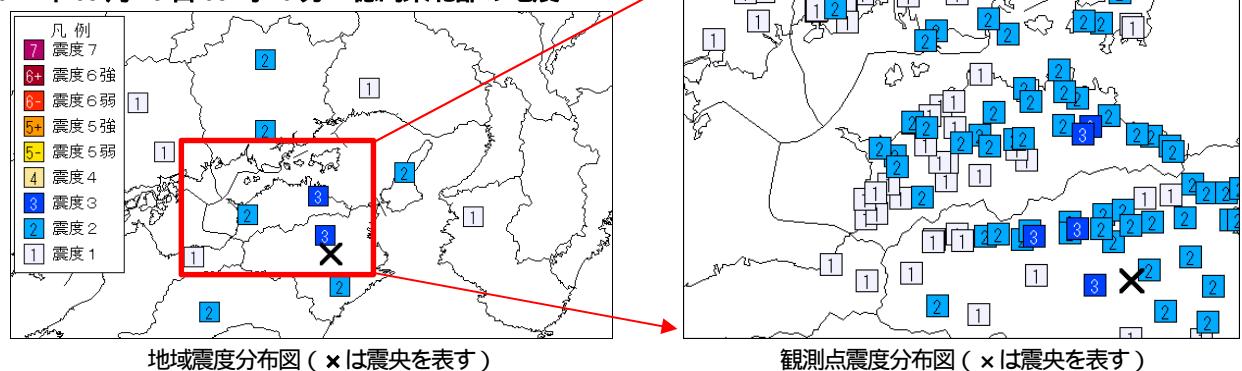
*は気象庁以外の震度観測点

震度分布図

2022年05月03日15時50分 鳥取県中部の地震



2022年05月23日08時20分 徳島県北部の地震



【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

令和4年(2022年)6月7日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

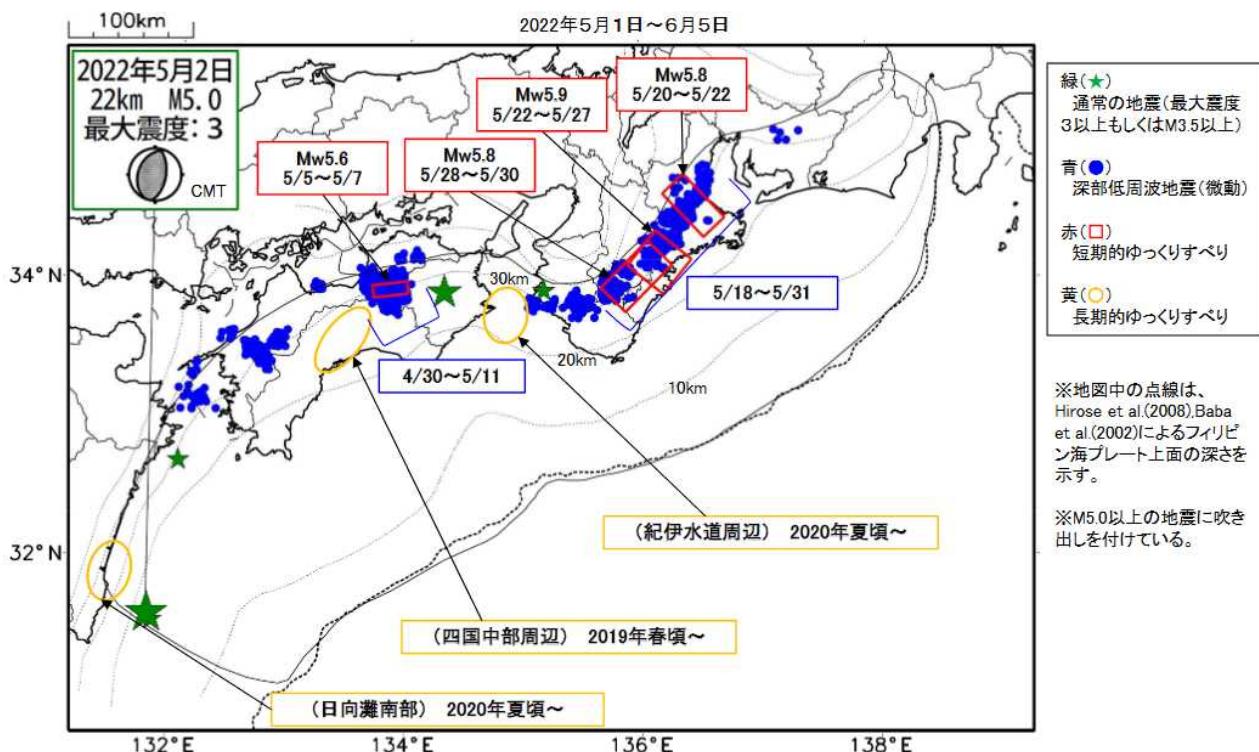
【調査結果(概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まつたと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注)南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、

昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から既に70年以上が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上)……………気象庁の解析結果による。

深部低周波地震(微動)……………(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。

短期的ゆっくりすべり……………【紀伊半島北部から紀伊半島中部、四国東部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。

長期的ゆっくりすべり……………【四国中部周辺、紀伊水道周辺、日向灘南部】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青) 短期的ゆっくりすべり(赤) 長期的ゆっくりすべり(黄)について、これらの現象はプレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2206/07a/nt20220607.html>

また、最新の南海トラフ地震に関する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム > 防災情報 > 南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

「津波フラッグは避難の合図」～すぐに避難を！～

令和2年6月から海水浴場等で、「津波フラッグ」により大津波警報、津波警報、津波注意報（以下、津波警報等という）が発表されたことをお知らせする取組が始まりました。



津波フラッグは避難の合図

「津波フラッグ」を用いることで、聴覚に障害をお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできます。

海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら、速やかに避難を開始してください。「より高いところ」を目指して逃げましょう。

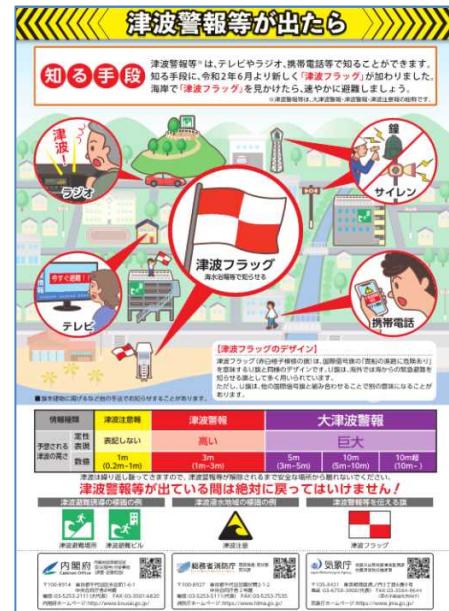
津波フラッグによる津波警報等の伝達

気象庁が津波警報等を発表すると、テレビ、ラジオ、緊急速報メール、防災無線、サイレン等、様々な手段で対象地域にいる人々に伝達されます。一方で、海水浴場などにおいては、聴覚による伝達手段と比較して視覚による伝達手段が少ないことから、令和元年10月から令和2年2月にかけて「津波警報等の視覚による伝達のあり方検討会」を開催し、津波警報等の視覚による伝達手段について検討が行われました。

検討の背景として、平成23年の東日本大震災では、岩手県、宮城県及び福島県における聴覚障害者の死亡率が、聴覚障害のない者の2倍にのぼったとのデータがあり、東日本大震災における聴覚障害者への情報伝達の問題点として、防災行政無線、サイレン、広報車による呼びかけが聞こえなかった、停電によりテレビ(字幕)や携帯メール等が使えなかった、といった点も挙げられています。

海水浴場等では、津波注意報以上が発表されたら直ちに避難する必要があります。しかし、このような場所では携帯電話を所持していないことも多く、防災行政無線やサイレンでは、聴覚に障害をお持ちの方に情報を伝達することができません。また、聴覚に障害がなくても、海に入っている場合など、波や風でこれらの音が聞こえない場合も考えられます。このような際に、津波注意報以上を伝達する手段として、旗による視覚的な伝達を行います。

どのようなデザインの旗が伝達に適しているかについて、実際に海水浴場において、当時先進的な自治体で用いられていたオレンジ色の旗や赤色の旗なども含めた複数のデザインの旗の視認性を検証した結果、津波フラッグは、長方形を四分割した、赤と白の格子模様のデザインに決まりました。遠くからの視認性を考慮して、短辺100cm以上が推奨されます。



津波フラッグの解説ページ URL (リーフレットのダウンロードも可能です)

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html